

平成25年度全国学力・学習状況調査は、4月24日(水)に全国の中学3年生に対して行われたものです。教科は国語・数学の2教科で、国語と数学はそれぞれ「基礎的知識を問うA問題」及び「知識を応用する力をみるB問題」のテストが行われました。生活・学習状況等に係るアンケートも同時に行われました。また、佐賀県学習状況調査は、3年生は4月25日(木)に、全国学力・学習状況調査では行われなかった社会・理科・英語の3教科について実施されました。本校では、今回の調査結果を基にして成果と課題を分析し、学習内容や指導方法の改善・充実を行い、生徒一人ひとりの学力の向上を図っていきます。なお、生徒一人ひとりの学習の状況につきましては、「学習状況シート」を配布しております。

3年生の傾向と今後の指導について

	傾 向	今後の指導について
国語	全体での正答率を見ると、国語Aでは県平均をやや下回り、国語Bでは県平均を大きく上回る結果となった。 観点別にみると、国語Aでは、「書く」は県平均とほぼ同じ程度であるが、「話す・聞く」「読む」「知識・理解・技能」は県平均をやや下回っている。国語Bでは「関心・意欲・態度」「書く」「読む」の3観点では県平均を大きく上回り、「知識・理解・技能」の観点では県平均を大きく下回る結果となった。	2年時に県平均を上回っていた「話す・聞く」ことが、今回は下回ったことを踏まえ、「話す・聞く」活動を意識した授業づくりを行うものとする。具体的な手立てとしては、授業中における聞き取りテストの実施やスピーチの実施、相手や目的に応じて、適切な資料を提示して話す学習活動を設定する。また言語に関するスキル学習を授業の帯学習や朝自習や放課後学習等で取り入れる。以上のことを重点的に行うものとする。
社会	全体での正答率を見ると、県平均をやや上回っている。 観点別では、「知識・理解」は県平均をやや下回っているが、「技能・表現」は県平均をやや上回り、「思考・判断」は県平均を大きく上回っている。 知識が、未定着である傾向がみられる。	知識の定着を図るため、随時プリント配布や試験の振り返りを行っている。表現力を高めるために、毎学習の最後に表現力の問題を解き自分の考えを持ち、それを表現できるように指導している。ただ、答えをすぐに求める傾向にあり、自らの考えを適切に判断し表現できる指導を、身近なニュース等をもとに指導していく。
数学	全体での正答率を見ると、数学Aでは県平均とほぼ同じ程度、数学Bでは県平均を大きく上回る結果となった。 観点別にみると、数学Aでは「技能」「知識・理解」の2観点ともに県平均とほぼ同じ程度である。数学Bでは「知識・理解」は県平均をやや上回り、「見方や考え方」は県平均を大きく上回って入りが、「技能」は県平均を大きく下回る結果となった。 技能の定着に不十分さを感じる結果となっている。	昨年度の同様の調査では、数学を苦手としている傾向がもっと強かった。落ち着いた授業の雰囲気等が力になってきていると思われる。 練習量が不足しているのか技能が不十分である。計算課題プリントを配布し、小テスト、再テストをループさせることによる、計算力の向上に根気よく取り組んでいきたい。 また、学習したことをすぐに忘れてしまう生徒も多いので、授業中に既習の内容を問いかけていくことを心がけ、記憶の掘り起こしを行っていきたい。
理科	全体での正答率を見ると、県平均を大きく上回っている。 観点別では、「技能」は県平均をやや上回り、「思考・表現」「知識・理解」は県平均を大きく上回っている。 全体的に、高いレベルである。	班実験からペア・個人実験とより個別化した実験を多くすることで、主体的に実験・観察ができるようになった。しかし、実験結果から分かったことを考察することを苦手とする生徒がまだ多い。そこで、今後も1時間の授業での到達目標を明確に表示し、授業の終わりに到達できたか確認をさせたい。また、細かなステップでの小テストを取り入れて、自分の学習内容理解度をチェックさせ、基礎基本の内容についての取り組みを丁寧に行いたい。
英語	全体での正答率を見ると、県平均とほぼ同じ程度である。 観点別では、「理解」は県平均とほぼ同じ程度であり、「言語・文化」は県平均をやや上回っているが、「表現」は県平均を大きく下回っている。 表現力の向上が課題である。	単元ごとに、単語と基本文の小テストを行っていることが、「言語・文化」の結果に表れていると考えられる。今後も引き続き行うことで、基本文や単語の定着を図っていききたい。また、苦手としている表現力の向上を図るため、教科書で取り扱われているWP(「書くこと」)の単元では、自分の伝えたいことを英語で書かせるだけでなく、書いたことを発表する場面を設定し、「話す力」の向上も行っていきたい。さらに、そこで書いたこと、話したことを定期テストの問題にも出題することで、授業だけでなく、家庭でも何度も繰り返し書いたり、話したりする場を仕組んでいきたい。